

## 17 形成外科研修プログラムの概要

### 1. プログラムの目的と特徴

当院は救命救急センターを併設する新潟市の中核病院であり、外傷、熱傷の患者も多数来院する。また、血管吻合などのマイクロサージャリーや皮弁の技術を用いて他科との共同手術など密接な連携をとっている。

形成外科専門医の資格は4年以上継続して形成外科の正会員で、形成外科研修を4年以上受けたものとなっており、認定施設あるいは教育関連施設での研修が必要である。当院は教育関連施設となっており、当院での研修後、さらに形成外科に進む場合、新潟大学形成外科への入局が可能である。

### 2. 研修内容と到達目標

#### 第1期（1年目）

- 1) 形成外科的な病歴の取り方。診察の仕方。
- 2) 記録の取り方（写真、レントゲン、印象模型）
- 3) 形成外科特殊検査のオーダー方法
- 4) 形成外科治療機械の操作法
- 5) 形成外科総論及び各論の概念と実習
- 6) 修得すべき手技
  - a. 手洗い、清潔操作等手術室における基礎の訓練
  - b. 包帯法、ガーゼ、被覆剤交換
  - c. 抜糸とその後の処置（テーピング固定など）
  - d. 創傷処置、救急患者の処置
  - e. 各種縫合法
  - f. 簡単な skin abrasion
  - g. 採皮
  - h. 簡単な癒痕および腫瘍の切除
  - i. ケロイドの予防と保存的療法
  - j. 熱傷の局所処置

#### 第1期（2年目）

- 1) デザインの訓練
- 2) 形成外科特殊検査の診断
- 3) 形成外科各論の修得
- 4) 総合治療計画の立て方の実習
- 5) 社会復帰を目的とした精神指導の訓練
- 6) 修得すべき手技

- a. 簡単な移植組織の採取
- b. 分層植皮術、全層植皮術
- c. 簡単な顔面外傷と骨折の治療、顎間固定術
- d. 複雑な部位の skin abrasion およびレーザー治療
- e. すべての熱傷の処置、特に全身管理
- f. 簡単な手の外傷の治療
- g. 簡単な変形および欠損の再建術
- h. 簡単な Z 形成術、W 形成術

#### 第 2 期（3 年目）

- 1) 前期研修医の指導
- 2) 総合治療計画の立案
- 3) 手術適応決定の訓練
- 4) 修得すべき手技
  - a. 高度な Z 形成術、W 形成術
  - b. 唇裂、口蓋裂 1 次修正術で比較的容易なもの
  - c. 各種皮弁の挙上、組織移植術
  - d. 高度の変形および欠損の再建術
  - e. 高度の顔面瘢痕の治療
  - f. 熱傷の総合的治療
  - g. 簡単な耳介の異常
  - h. 皮膚腫瘍、軟部腫瘍の切除、摘出および再建
  - i. 頭蓋顎顔面外傷

#### 第 2 期（4～5 年目）

- 1) 手術適応の決定
- 2) 必要な形成外科関連各科の知識と手技の修得
- 3) デザインの修得
- 4) 形成外科総論および各論の知識の確立
- 5) 美容外科に対する知識と手技の修得
- 6) 人工材料の知識の修得
- 7) 指導医として後輩を指導
- 8) 日本形成外科学会専門医の修得
- 9) 研究